

歴史文化館ニュース 第6号

2011. 12. 9

つながりが広がっています

梶山歴史文化館

館長 梶山美恵子

梶山歴史文化館と様々な人々とのつながりが広がっています。

文化展示室では9月下旬まで生活環境デザイン学科の学生作品展を開催しました。バラエティーに富んだ豊かな発想と高い技術の作品揃いで大変好評でした。学園内外の人々に学科の紹介をするよい機会になりました。10月から開催している『あなたの、わたしの「人間になろう」作品展』では幼稚園から大学までの在校生有志が出品し、「人間になろう」のメッセージとともに、絵・工作・習字・作文などで自由に表現しています。素晴らしい力作が揃っていて、訪れる人の感動を呼び、学校を超えた交流の場となっています。1月からは小学校作品展を予定しているほか、今年度立ち上げた「デジタルアーカイブ研究会」の研究報告展示を予定しています。また今後の文化展示室利用については利用希望が既にいくつか寄せられていて、つながりが広がっていることが感じられます。

新たに大学のゼミ生との協力も生まれています。文化情報学部の柊窪先生のゼミ生による歴史文化館シリーズの映像制作への協力はいま4本目と5本目に入っています。宮下先生のゼミ生は学生ならではの視点で展示方法について積極的に意見を出してくれています。

来館の範囲も広がってきています。梶山小学校児童の見学と中高土曜講座での来館があったほか、大学の授業やゼミ・入門演習など、大学生の利用が増えています。中学のPTA見学会・高3の大学説明会・大学オープンキャンパス・大学ホームカミングデイなど、行事での学園関係の人々の来館のほか、愛知県史編纂室・他大学の院生の研究・大学における研究会などでの来館や、他大学・新聞社からの資料提供の要請など、学園外からのアプローチも増えてきました。また、ご自分の卒業証書や懐かしい思い出の品々を見て喜んでいただく高齢の卒業生の来館も増えてきました。

また歴史文化館のホームページは「新着情報」「新着ニュースレター」のほか「資料室」が徐々に充実してきていますので、今後つながりを広げるのに大きな役割を果たすことが期待されます。今後も皆様のご協力を得て、学園内外でよりいっそうつながりを広げていきたいと願っています。

【『あなたの、わたしの「人間になろう」作品展』を開催しています】

現在、文化展示室において平成23年12月16日（金）までの会期で『あなたの、わたしの「人間になろう」作品展』を開催しています。本学園教育理念「人間になろう」をテーマにし、『今、あなたにとっての「人間になろう」とは何ですか』という問いかけのもと、幼稚園から大学院までの在校生による作品展で、工作が11点、絵画が32点、書道44点、作文2点、製作1点の約90点を展示しています。

一人ひとりが学び、感じる「人間になろう」は様々ですが、どの作品も瑞々しい感性に溢れるのびのびとした梶



山生らしい力作が並んでいます。添えられたメッセージには「人間になろう」に対する想いや作品への情熱が綴られています。この作品展を通して「人間になろう」をより深く皆さんと共に考える場となっています。

また、作品は歴史文化館ホームページでご覧になれます。

あなたの、わたしの 「人間になろう」作品展

梶山文字画展 梶山正吉

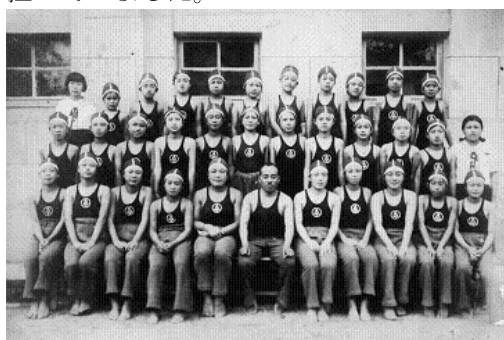
開催期間：平成23年10月5日(水)～平成23年12月16日(金) 10/15 臨時開館
会場：梶山歴史文化館文化展示室(大学図書館4階)
開催日：水・金曜日 10:00～16:00

※ 梶山歴史文化館では、本学園の理念「人間になろう」をテーマにした作品を展示しています。この作品展は、幼稚園から大学院までの在校生有志が出品し、「人間になろう」のメッセージとともに、絵・工作・習字・作文などで自由に表現しています。

【来館者が語る梶山での青春時代】

本館の歴史展示室には「生徒の活動」として「生徒会新聞」やクラブや生徒たちの自主発行誌、遠足の記念絵葉書、そして1936年のベルリンオリンピックの日本人女性初の金メダリスト前畑秀子氏に関する資料が多数並んでいます。先般、前畑氏をよく知る中川佐和子さん（梶山女子専門学校附属高等学校・昭和16年度卒業生）が来館され、当時の様子を語っていただきました。

中川さんは前畑氏と同じ和歌山県出身で地元の小学校を卒業後、昭和11年梶山女子専門学校附属高等学校に入学。幼少より郷里では水泳の実力を発揮しており、水泳部特待生として水泳部に所属されました。当時から梶山の水泳部は強豪として名を轟かせており、中川さんも1938年の第4回名古屋京都対抗女子水上競技大会にて200メートルリレーで第二泳者として参加、3メートルの差を広げ、2分15秒の日本新記録を樹立するなど、活躍の一端を担っていました。



当時は創設者梶山正式氏の自宅2階を寄宿舎として使用しており、寄宿舎生は正式・今子両氏と同じ内容の食事を摂り同じお風呂に入り、正に寝食を共にする毎日を送っていました。中川さんも5～6名在籍していた寄宿舎生の中の1人として昭和12年までの1年半の間、前畑秀子氏と同室で共に生活しました。「8歳上の前畑さんには残念ながら直接水泳の指導は受けていませんが、妹のように「佐和ちゃん、佐和ちゃん」と言いかわいがってもらいました。」水泳部の練習は厳しく時には1日8000メートル泳ぐ日もあったそうです。

中川さんは授業で使っていたノートやテストの答案から賞状に至るまで、今では貴重な資料となるそれらのものをひとつひとつ丁寧に保管されていて今回はその中から実際に使用されていた水泳部水着の学園章部分と上級女子体力章を寄贈していただきました。

水泳部の集合写真を前に幾人かの級友の名前を挙げられて、当時の出来事について目を細めて話される様子はまるで女学生に戻ったように生き生きとしてとても印象的でした。

【正式記念室トピックス】

＜大正時代の校舎の遺構＞



これは大正13年に建設された梶山第二高等女学校の校舎の2階に昇る階段の親柱です。親柱とは高欄や階段などの両端や曲がり角に立つ太い柱のことです。

この校舎は現在の山添キャンパスの地に建設された二階建ての建築面積630坪のモダンな建築で、モルタル仕上げの壁面、幾何学模様の窓、ロータリー式回り道のある玄関、またバルコニーや屋内プール、文化住宅式の寮などを備え、大正10年の梶山正式氏によるアメリカ視察によって得たアメリカの学校建築の知見をふんだんに取り入れたものとなりました。その様子から「白亜の殿堂」と呼ばれ人々の話題を集めました。当時は学校の東西南の三方は田畑のみであり、覚王山からは西の大通りはなく、東へ向かう学校へは細道が1本あるだけで人家は一軒もなかったとの記録が残っています。梶山第二高等女学校の校舎の様子を伺い知る貴重な資料として、現在、この手すりは正式記念室のらせん階段入口に設置してあります。



【寄贈資料の整理について】

これまでに、館内事務室書棚の学園発行資料・写真・絵画類を整理してきました。現在は、本学を退職された教員から寄贈された資料の整理を進めています。主なものは、安田孝子（大学名誉教授）氏の大量の図書、学内刊行物、原稿等の資料と、松井康太郎（元中・高校長）氏の中学校・高等学校全般に関する大量の資料です。安田氏の分については、図書は資料番号を付け、図書以外の資料については、資料ごとに専用の中性紙袋に入れて学園センターB階の保管庫に収納しています。松井氏の分については、学校行事等の資料が今後山添キャンパスにあるメモリアルルームを構築する上での参考となることから、必要と思われる資料をピックアップしてパソコンに打ち込んでいます。今後他の教員の寄贈資料についても作業を続けていく予定です。

【学生の制作による梶山歴史文化館紹介の動画】

文化情報学部の新井先生の指導を受けている学生が、授業の一環として、梶山歴史文化館と共同で紹介映像を制作しています。

テーマ、台本作り、インタビュー、撮影、編集と全て新井先生、学生、梶山歴史文化館の共同で行われ、映像中に流れる音楽は教育学部の学生が作曲したオリジナルの曲を使用しています。

映像時間は4分ほどですが、わかりやすく編集されていますので、一度ご覧いただくと素晴らしさがわかります。

この映像は梶山歴史文化館シリーズとして、今年度は5つの映像作品を制作する予定で、既に3つの作品が文化情報学部のホームページで公開されています。

梶山歴史文化館のホームページ（ニュースレター）からも映像を見ることができます。

残りの2つは現在製作中ですが、予定としては以下のとおりです。

「学園章」（大正10年に公募により、当時の生徒がデザインしたものを学園章として制定し、以来今日まで使用されています。その歴史と意義について紹介します）

「人間になろうの由来」（昭和37年に星が丘キャンパスに大学が移転し、同時に二つの丘をつなぐ橋が完成しました。その折、学園創設者の梶山正式氏が語った「人間になろう」という言葉が、学園の教育理念になっています。この言葉が持つ意味をどのように捉えてきたのかを今日的な意味も含めて紹介します）



公開された作品を以下に紹介します。

①梶山歴史文化館～歴史を学ぶと未来が見える

学園の創設から100年を超える歴史を今に伝える梶山歴史文化館。その概要を展示資料の紹介や館長インタビューなどを交えて、学生がレポートしています。

この映像をご覧になり、実際に来館されているいろいろな歴史の発見をしていただけたらと思います。



②金メダリスト・前畑秀子を知る

1936年ベルリンオリンピックの金メダリスト・前畑秀子（本学卒業生）氏を紹介しています。

当時のベルリンオリンピックの貴重な映像や記念品の紹介、前畑氏を知る元教員のインタビュー、最後に未来の子どもたちに向けて書かれた前畑氏自筆のメッセージを紹介しています。



③金剛鐘の歴史と意味

学園のシンボルとなっている金剛鐘の歴史と意味を取材して映像にまとめられています。昭和6年に設置された金剛鐘が、今も生徒によって生演奏され、全校生徒が毎朝傾聴していることや、演奏されている歌詞の由来とその意義などを紹介しています。



【雛形の撮影】

梶山女学園大学現代マネジメント学部 三木邦弘

私は平成22年度の学園研究費A（研究代表者飯塚恵理人文化情報学部教授：「写真資料・和書・博物館資料のデジタルライブラリ構築に関する基礎的研究」）の一環として、歴史文化館所蔵の「衣服裁縫図解」や掛け軸のデジタル化と共に雛形の画像データベースの試作を行いました。学園創設の頃教科書として用いられた「衣服裁縫図解」のデジタル化は、撮影をナカシャクリエイティブ社に外注して行い完成しました。掛け軸の撮影も同社に外注して行いましたが、費用の関係でごく一部の撮影で終わりました。歴史文化館所蔵の雛形は、現在「雛形研究会」が整理を行っています。総数は約550点と言われているのですが、平成22年度の学園研ではその中の37点ほど自分で撮影しました。こちらの撮影も外注化を検討しましたが、点数が多いので、全てを撮影する際にかかなりの費用がかかるのと、やがて雛形の整理が終了した際には、雛形研究会が冊子の形でまとめる予定ですが、冊子に掲載する雛形の写真だけ外注すればよい、と言うことで素人撮影で挑戦することになりました。

今年度になり、歴史文化館では新たに「デジタルアーカイブ研究会」が立ち上がり（歴史文化館ニュース第5号参照）、私もその研究員の一人となりました。昨年度学園研で手がけた仕事の中で、余り費用もかけずに継続できるものとして、雛形の撮影を続けることにしました。雛形研究会で整理ができたものを中心に、週に1、2度程度少しずつ撮影しました。雛形は、その名前のおり普通の衣服と比べると小さいし、生き物のように動いたりもしないので、比較的容易に撮影できるものだと思いますが、私の経験不足もあり結構失敗もありました。昔のようにフィルムでの撮影ならば、かなりの費用がかかったことでしょうか、幸いなことにデジタルカメラなので何枚撮っても費用はかからず、どうしても綺麗に撮れないときは、冊子にする際は外注するから良いわ、と先に進みました。その結果10月末の時点で全体の約半分の263点の撮影が終了しています。

撮影した画像は、歴史文化館のホームページの「資料室」のページから行くことができる学園研の際に作成した雛形データベースに入れています。残念ながら画像は入ったものの、個々の雛形に関するデータの入力はまだ行われていません。よってまとめた検索はできませんが、何も条件を入れずに検索を行うと撮影した全ての雛形を見ることができます。雛形データベースではWebページの形で見ると他に、PDFデータにして印刷も可能です。印刷物では写真を拡大して見るというわけにも行きませんので、柄模様の拡大写真も付いています。（印刷例参照）ただ最近流行のiPadなどのタブレット端末にPDFデータのまま入れてみたところ、全体の写真のところで拡大操作（ピンチアウト）をすれば簡単に拡大表示ができるので、柄の拡大写真は不要と言うことがわかりました。将来は、遠隔の方はWebページで、歴史文化館に来られた方にはiPadなどで雛形を見ていただくことになるでしょう。（もちろん歴史文化館まで来れば実物もありますが、常時展示されているのはごく一部です）

全ての雛形の撮影が終わるのは、雛形研究会の整理作業の進行しだいになります。撮影と並行して雛形個々のデータも入れて行きたいと考えています。

編集後記

梶山歴史文化館は開館3年目を迎えようとしています。その間に展示方法や展示アイテムについては見直しも行いました。また、收藏棚の整理を行い、新たな資料の発見もありました。勿論貴重な資料の寄贈もありました。これらの資料を生かしつつ、今後どのように展示を行うとよいのか構想は膨らみます。

皆様から良いアイデアがありましたら是非お寄せいただきますようお願いいたします。

歴史文化館ニュース 第6号

発行日 2011（平成23年）12月9日

編集・発行 梶山歴史文化館

名古屋市千種区星が丘元町17番3号

大学中央図書館4F

TEL 052（781）1186（代）

052（781）4590（直）

編集担当者 梶山美恵子 村瀬輝恭 大浦詔子 河路峰雄

